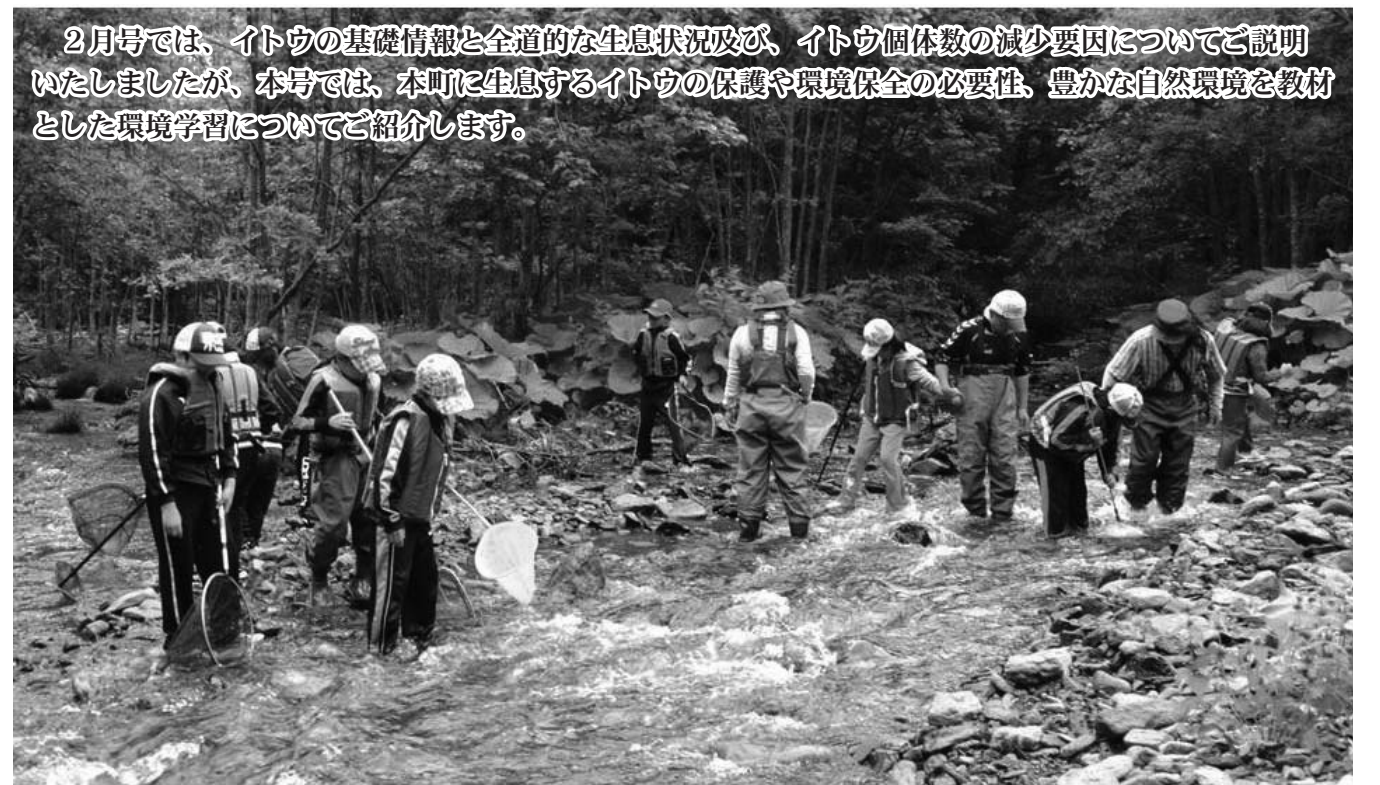


# イトウと共生するまちづくりを目指して (後編)

2月号では、イトウの基礎情報と全道的な生息状況及び、イトウ個体数の減少要因についてご説明いたしました。本号では、本町に生息するイトウの保護や環境保全の必要性、豊かな自然環境を教材とした環境学習についてご紹介します。

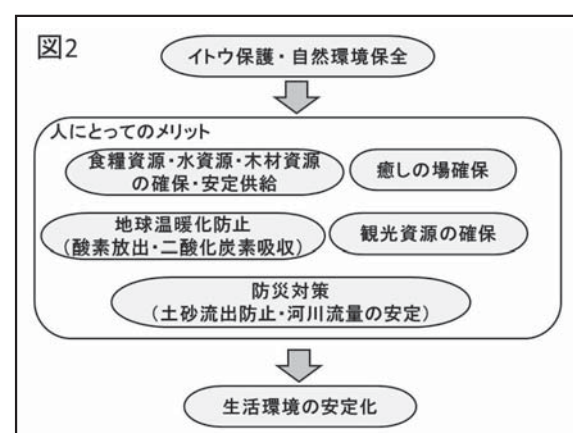
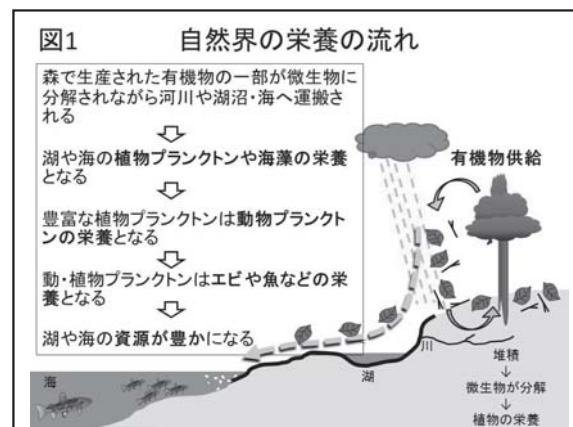


## ○イトウ保護や環境保全がなぜ必要？

イトウが一生涯を全うするためには河川の上流域から下流域までの連続した生息域が必要です。成魚の生息と産卵の場所が異なる他、成長段階によって生息場所が異なるからです。また、食性も異なります。イトウが次世代に命を繋ぐには流域全体の環境が多様で、かつ、多様な生物が生息しうる環境が必要です。言い換えれば、イトウが健全な状態で生息することが出来る地域は、豊かな自然があることの証と言えます。では、豊かな自然が人にとって何が良いのか？ それは、例えば、生命

維持をするうえで最も基本となるのが水と酸素です。多くの植物が茂る森林は雨水を貯水し、ろ過する機能があります。また、植物の光合成によって二酸化炭素を吸収し、酸素を放出します。人は森林の働きによってきれいな水が飲め、きれいな空気を吸い、生きることが出来るわけです。

この他にも森林には様々な働きがあります。例えば、私たちはワカサギやエビ、イワシ、サケなどを食べて栄養を得ています。これらの魚は動物プランクトンを食べます。動物プランクトンは植物プランクトンを食べ、植物プランクトンは森林から川を伝って



流れてくる栄養を吸収して育ちます。つまり、人も魚も他の動物も皆森林の働きのおかげで生きていけるわけです。(図1)

自然豊かな地域は、前述のような食糧供給源であること他に、木材供給レジャー・癒し効果など様々なメリットがあり、経済効果を生む可能性もあります。(図2)

南富良野は札幌や東京などの都市と比べて生活に不便な部分があります。別の視点で見れば、豊かな自然を有する南富良野は食糧資源の源です。これは何物にも代えられない価値があります。

本町の『イトウ保護管理条例』では、このような視点から保護と利用の両立を図るため、豊かな自然の象徴であるイトウの順応的な保護管理及び、環境保全、環境保全のための普及・啓発を進めています。

## ○南富良野の環境学習(趣旨)

環境学習では、次の3つの目的をもって行っています。

- ①自然環境の存在に価値を見出す。
- ②本町の希少生物保護や自然環境保全及び、活力ある水と緑豊かなまちづくりに寄与する。
- ③地球規模の環境問題解決に貢献する

## ○人材育成

豊かな自然の存在に価値を見出すには、自然の中で生き物に触れ、遊び感覚で体験することが最も重要であり、体験学習に加えて自然生態系に関わる基礎的な知識を習得することで、より深い理解に繋がると考えています。

そこで、環境学習では野外における体験学習を基調とし、自然生態系の様々な現象を感覚的に捉え、屋内の座学でそれを補います。その後、学習のまとめをして、最終的に学習発表を行います。

小学校では水生生物を採集する活動の中で、どんな生き物がどんな環境で

## ○体験を重視した環境学習

多くの捕れるのかを遊び感覚を持ちながら学習しています。また、学校による実施時期やテーマにより異なりますが、イトウの子供が孵化した直後の様子や泳ぎだして間もない稚魚の様子も観察してもらいます(写真1)。

中学校、高校では、生物と環境の関係性を感覚的に捉え、生物と環境の関与された生物種の個体数と、生物採集地点の環境(例えば、砂利の大きさや水深など)を計測し、科学的な手法を用いて生物と環境の関係性を見つめる学習を行っています。

これらの学習を通じてわかったこと、考えたことなどをまとめ、発表します。(写真2・写真3)

## ○座学では、学年を問わず多くの生徒が難しそうな顔をしながらも集中して学習に取り組んでいました。野外の体験学習でも多くの生徒が同様に、潜在する好奇心や狩猟本能を開花させ、遊び感覚をもって活動している様子が伺えました。

このような体験活動を行うことが環境保全の意義を見出すことに繋がっていきと考えています。今後、南富良野の豊かな自然の存在価値をより多くの人に知ってもらうために、普及・啓発活動を進めていきます。

